

琉球新報 2014年8月30日

タバコの依存性はとても強く、一度中毒になってしまつとなかなか止めることができません。タバコのために学校に行けなくなつてしまつケースもあるそうです。ある小学校6年生の女の子は家にあつたタバコを吸うようになって、ニコチン中毒になってしまいました。修学旅行を目前にして、旅行の間タバコを吸えなくなるのが嫌だから修学旅行に行きたくないと言いつ出したそうです。幸い、その子はきちんと禁煙治療をうけて、無事に旅行に行くことができました。ただ、一度依存症になると、また再度喫煙してしまつというリスクを負います。ですから、中毒になる前に教育の力によって、ニコチン依存症になることを防ぐことがとても大切なのです。家庭内に喫煙者がいると、子どももの喫煙経験が増えることが分かつています。さらに子どもものところに興味本位で少しでもタバコを吸つた経験があると、将来喫煙習慣



島袋 史

ふみ

ゆいクリニック院長
産婦人科医

がつきやすいということも分かつています。

やはり家庭における喫煙は、子どもに大きな悪影響を与えています。逆に家庭内にタバコを持ち込まない、親が子どもにタバコの害を伝えることは、子ども喫煙を防ぐ第一歩と言えます。喫煙防止教育で大切なのは、タバコをやめることとはとても難しいことなので、最初から吸わないことが大切、ということ伝えることです。タバコを吸う習慣がついてニコチン依存症になってしまった場合の大変さを伝えて、タバコを勧められても吸わないこと、ということをお教えることで子どもたちの健康が守られると思います。小さな子どもには、「タバコいやーの絵本」(アーニ出版)のような絵本を読み聞かせるといった方法もあります。タバコについての正しい知識を子どもたちに持たせることはとても大切なことです。ぜひ、子どもたちとタバコについて話し合つてみ

南風

防煙教育について